

ゼミ情報一覧

最終更新日 2023年1月19日

1. ゼミのテーマ

組織心理学に基づいた人的資源管理論と組織行動論を扱います。特に以下の分野を扱います。

- ①「**就職選抜論**」: 主に就職試験の適性検査・エントリーシート・面接を扱います。
- ②「**職場のパーソナリティ**」: 経営学と関連するビッグファイブ、ダークトライアド、時間的展望、自尊感情、レジリエンス、GRITなどの職場のパーソナリティを扱います。

2. ゼミの雰囲気

組織心理学を学ぶ人が集まりますので、柔らかい議論の雰囲気づくりを大切にします。ただし、議論を真剣にすることは前提です。

3. 懇親会など

大学の方針として許されれば飲み会・食事会を開催する予定です。参加はもちろん任意です。

4. ゼミ幹事制度

各学年からゼミ幹事2~3名を決めます。ゼミ幹事は学期ごとに交代する予定です。

5. 授業期間中の指導や質問など

- ・ 教員による指導はゼミの授業時間内およびその前後時間とします。ゼミ生が多いため、ゼミの授業時間外でメールなどによる論文指導などは行いません。なお、誤字脱字、形式不備、前回指摘事項の未修正など、基本的な事項が完了していないときには研究の内容把握ができないため研究指導は行えません。
- ・ 留学生について日本語・英語の不備がある場合も同様に研究指導は行えませんので、その点に留意して準備をしてください。
- ・ 卒業論文、修士論文の形が見えてきたら、ゼミのコマで「個別指導」の時間を設けます。個別指導では対象学生の卒業論文・修士論文・博士論文をプロジェクトに投影し、細かくチェックします。
- ・ 授業期間中に質問などがあれば、NUCT・メールではなく、教室で授業時間中およびその時間前後に問い合わせてください。メールでの質問は原則禁止とします。なお、コロナ感染者・濃厚接触者

になって教室に来られない学生のみ、NUCT・メールで問い合わせてください。

- ・ メールで教員に連絡する場合は必ず大学のメールアドレスを用いてください。私用メールアドレス（gmail, 携帯キャリアのメール, その他）では本人かどうか分からないためです。私用メールアドレスからの連絡は内容を見ません。

6. 授業期間外の指導や質問など

- ・ 夏休み・年末年始・春休み・土日祝日などの授業期間外は学生個人での活動期間にします。授業期間外は卒論・修論の指導を原則行いませんので、教員への質問・確認などは授業期間中に個人で計画的に進めてください。
- ・ なお、健康上の理由などによる緊急性が高い場合には例外的に授業期間外でも対応しますので、メールでアポイントメントをとってください。対面またはZOOMで指導します。メールでの指導は行いません。
- ・ 夏休み・冬休み・春休みの授業期間以外の講義や合宿などは今のところ予定していません。ただし、授業期間外でもグループでの活動がある場合があります。

7. ゼミ参加の基本ルール

- ・ 『自ら調べて知りたいことの知識を深める』ことを基本ルールにします。教員および他のゼミメンバーはその支援をします。教員が全てを指示し、教えるような場ではありませんので注意してください。講義型授業とはその点が異なるため、基本的な姿勢が大きく異なる点に注意してください。
- ・ 自分で調べた上で質問することが求められます。自分で調べずに「どうしたらいいですか」という、手ぶらの質問を投げかけて、教員から指示を受けてそれに受動的に従う場ではありません。そのような質問は原則禁止していますので注意してください・・・社会人になってからも顧客・社内から最も低く評価されるのはこの手ぶら質問なので今から準備しておきましょう！
- ・ ただし「相談会」だけはそのルールから除外します。相談会は、自由な疑問を手ぶらでやり取りする極めてお気楽な場にします。

8. 卒論・修論のスケジュール（重要）

- ・ 学部生の卒論については、3年生秋学期の終わり（1月末ごろ）にデータの一部の取得・分析がなされたものを提出してもらいます。その後、4年生春学期の終わり（7月）には卒論がほぼ完成している状態にしてください。夏休みなどの授業期間外の指導・チェックは行いませんので十分注意してください（例えばメールで夏休み直前や夏休み中に卒論ファイルが送付されても対応できません）。4年生10月には卒論が完成し、10月～11月は学生による相互チェック会を多めに行いながら、最終化のみを行います。つまり、4年生秋学期の卒論作成時間はほぼなく、チェックのみに

なります。4年生秋学期に卒論の一部を新たに作成したり、分析を追加したりすることは原則認められません。

- 大学院修士の修論については、M1秋学期の終わり（1月末ごろ）にすべてのデータの取得・分析がなされたものを提出してもらいます。その後、M2春学期6月には修論がほぼ完成している状態にしてください。夏休みなどの授業期間外の指導・チェックは行いませんので十分注意してください。M2の10月には修論が完成し、10月～11月は学生による相互チェック会を多めに行いながら、最終チェックのみを行います。つまり、M2秋学期の修論作成時間は全くありません。M2秋学期に修論の一部を新たに作成したり、分析を追加したりすることは認められません。
- 個々人の締切が迫ってきているという理由でゼミ時間以外およびその前後以外の時間においてメールでファイルを添付したり、研究内容指導を求められても対応できません。つまり、個々人の締切に関係なく、研究指導時間は授業期間中のゼミ時間およびその前後の時間ですので計画的に進めてください。
- 以上から遅れてしまう場合、卒業や修了が大変難しくなります。ただし、計画的に取り組めば全く問題なく遂行できるスケジュールですので安心してください。

9. 学部ゼミの志願者の方へ

学部2年生を対象に、秋ごろゼミ説明会や質問会を行います。詳細は別途案内します。その他、質問や希望があればいつでも学部1年・2年生でもメールで受け付けています。

学部2年生時のゼミ申込書には志望理由のほかに、①GPA、②英語能力（TOEIC、TOEFL、英検など）、③「経営労務」履修の有無を必ず記載してください。なお、学部ゼミ生は学部科目「経営労務」（2年時履修科目）および「経営労務特論」（3・4年時履修科目：3年での履修が望ましい）の履修を強く推奨しています。ゼミではこれらの科目が基礎として理解されていることを前提に進めます。

なお、メールで教員に連絡する場合は必ず大学のメールアドレスを用いてください。私用メールアドレス（gmail、携帯キャリアのメール、その他）では本人かどうかわからないためです。

10. 大学院博士前期課程・博士後期課程の志願者の方へ（重要）

「研究計画書」に必ず以下を記載してください。記載がない場合、研究計画の現実性や価値が判断できないため、低く評価される可能性があります。大学院志望者で、出願前の面談を希望される方も以下を必ず記載してください。なお、メールで連絡をいただく場合は私用アドレスだとスパムメールとの区別ができないため、所属機関のメールアドレスからのご連絡のみ受け付けています。また、メール添付ファイルはウイルス対策のため開きません。

[必要事項]

- ①データ取得が確実にできることを明記してください。データ取得の具体的方法（対象者、調査方法な

ど)を明記してください。なお、量的研究にこだわる必要は全くありません。多くの対象者から独自データを取得するリサーチデザインが難しい人は、質的研究を用いた探索的アプローチを積極的に考えてください。探索的アプローチによってこれまで不明だったことが多くわかる(少なくともその道筋が得られる)ことが少なくありません。

②学術研究の理論的枠組みを明記してください。なお、理論・概念にただ振り回されているような経営的なリアリティに欠ける研究は本研究室では行っていません。研究の実践的意義と理論的意義や新規性を明らかにした上で理論的枠組みを述べてください。

③先行研究として学術論文を複数明記してください(英語文献、日本語文献の両方)。

④研究計画をなるべく具体的に記述してください。

[注意事項]

- ・ 量的研究を行い、とにかく媒介効果を論じれば良いと考えて研究計画書を構成する志願者が毎年多数いますが、先行研究レビューが不十分で、恣意的に導出された媒介効果に関する仮説に基づく研究計画は低く評価します。本研究室では、偶発的な概念間の関係性に基づく仮説を明らかにするよりも、各概念の構造を明らかにするための分析を重視します。つまり、拙速に概念間の関係を都合の良い仮説で導出し、シングルショットの回帰分析やパス解析で出た結果をあたかも真理の発見のように扱うのではなく、より丁寧に、各概念が対象者において適用可能なのか、という点からの検討を重視しています。そのため、分析手法として探索的因子分析、確認的因子分析、信頼性分析、妥当性分析などを重視します。
- ・ 企業内人事・採用データを取得するためには人事部長や取締役などの責任者と極めて強力な人的な関係性がなければ不可能です。その点に注意してください。つまり、自分では取得不可能なデータに基づいた研究計画を作成するのではなく、取得可能なデータに基づいた研究計画を作成してください。
- ・ データ取得や研究計画などに不安がある志願者からの事前相談を受け付けていますので、是非活用してください。ただし、あらかじめ自分のプランを考えておくことはこの場合においても必要です。

学部3年生ゼミ

1. 目的

- ・ 調査・分析・思考・議論能力を身につけて社会人になってから活躍する力を蓄えること。
- ・ 研究したい人に限っては、とことん研究して学会発表・論文投稿を目指すこと（ただし、皆が学会発表・論文投稿をする必要はありません）。

2. 春学期の活動

第一回授業ではガイダンス、自己紹介、ゼミ幹事決定、グループ分けとグループ演習課題の提示、個人研究発表の順番決定と発表方法提示を行います。第二回授業以降は以下の4つの活動で構成します。2.1. グループでの企業経営演習、2.2. 個人研究発表、2.3. 資料検索講習会、2.4. 実践統計講義の4つについてそれぞれ以下に詳述します。

2.1. グループでの企業経営演習

経営理論の「インプット」は他の授業で行っているため、ゼミでは「アウトプット」を行います。「情報を教えられてから検討する」という受動的な考え方では経営スキルは習得できません。他の授業でインプットを行い、また授業外でも自ら情報・知識を進んで習得しながら実在する特定企業の採用戦略の問題を見つけ出し、それを解決するためのケース・スタディ演習を行います。

2.1.1. 目的

- ・ グループで経営課題を解く力を習得します。
- ・ 実在する特定企業の採用管理の問題を見つけ、それを解決するために海外で研究が進んでいる学術理論とグローバル企業の事例を自らリサーチします。
- ・ 単に採用管理だけを見ても企業経営の全体像がつかめなため、経営戦略、人事戦略のそれぞれを分析した上で、採用戦略をそこに定位します。特に、経営戦略への理解を重視します。
- ・ それを踏まえて、どうすれば採用管理の問題が解決されるのか、それが人的資源管理と企業経営全体にどのような成果をもたらすかについてグループで発表資料を作成してプレゼンテーションを行います（ビジネスプレゼンのつもりで発表をすること。手ぶら発表禁止）。

2.1.2. プレゼンテーションの構成

- ・ 取り上げる企業は1社です。教員から指定して全てのグループが同じ企業への分析を行います。
- ・ 1社は教員の人脈から実在する企業に勤務する経営者・実務家を選定して、検討すべき課題を提示

してもらい、実務家に報告する予定です。ただし、相手の予定がある話なので変更がある可能性があります。

- ・ プレゼンテーションの構成は以下の通りです。パワーポイントで作成してください。ワード禁止。プレゼン時間は、グループで発表20分、質疑応答20分です。

①取り上げる企業名と企業概要

②経営戦略分析

③人事戦略分析

④採用戦略分析

④-1 グループが考える問題

④-2 問題解決に用いる学術理論とその概要

④-3 問題解決のためのプラン

⑤まとめ

2.1.3. 活動形態

- ・ グループでの演習は、ゼミ時間には指定教室内で行うようにしてください（図書館などはNG）。活動状況を把握するためです。教員の許可を得て図書館などに行くのはOKです。
- ・ 授業時間は教員に自由に質問をしてください。

2.1.4. 補足

- ・ 経営戦略分析では、学術研究における理論的枠組みを1つ以上用いることを必須にします。国内学術論文、海外学術論文をそれぞれ1つ以上参考文献にしてください。
- ・ 人事戦略分析では、学術研究における理論的枠組みを1つ以上用いることを必須にします。国内学術論文、海外学術論文をそれぞれ1つ以上参考文献にしてください。
- ・ 採用戦略分析では、学術研究における理論的枠組みを1つ以上用いることを必須にします。国内学術論文、海外学術論文をそれぞれ1つ以上参考文献にしてください。
- ・ 学術研究に該当するかどうか迷う人は自分で調べ、また、教員に授業時間内に質問してください。

2.2. 個人研究発表

2.2.1. 目的

- ・ 卒業論文作成に向けて、個々人で課題を設定して、自分でデータを取得して研究を行い、知見を導き出します。

2.2.2. 準備

- ・ ディスカッション方式でテーブル作りを行います。1テーブルあたり4人程度。
- ・ グループメンバーは毎回変えます。
- ・ テーブル整理・プロジェクト設置・マイク準備・換気等はゼミ幹事が行ってください。

- ・ 時間が限られている為、発表の順番は講義開始時間前に決定しておいてください。また、時限の延長があり得るため、ゼミの予定を優先してください。

2.2.3. 時間配分

- ・ 1人7分で個人発表→各グループ内での討議7分&教員による個別指導→グループとの質疑応答7分→教員総合講評1分（発表1人あたり22分）
- ・ 司会は学生が当番で行います。ゼミ幹事が学生の司会当番の順番を決めておいてください。1回のゼミで司会は1人です。同じ人が2回以上司会をしなければならない場合はゼミ幹事を優先して当番を担当してもらいます。

2.2.4. 発表方法

- ・ 個人研究発表者は、ワードで卒業論文を作成（パワーポイントは禁止）し、プロジェクタに投影しながら以下に従ってください。ワード資料を必ず準備してください（手ぶら発表禁止）。ワードで最初から卒業論文を徐々に書いていくイメージで効率的に進めていきます。また、論文の書き方についての書籍等を図書館等で必ず読んだ上で準備してください。
- ・ ①クラスで共有したい点（主要な概念や理論、調査法、仮説立案法、統計法など）、②グループで討議してほしい論点・疑問点の2点を発表冒頭で予め明示してください。
- ・ その後、卒論本体の発表に移ります。クラス全体への情報共有を心がけて、目的、概念や理論、仮説など中心的議題を発表してください。つまり、単なる朗読にならないようにしてください。
- ・ なお、自分の調査結果やプランが無いままに「どうしたらいいですか」というような手ぶらの提示は禁止します。

2.2.5. 論文構成

卒業論文・修士論文の一般的構成は以下の通りですので、個人研究発表も以下に則ってください。ただし、一般的構成の一例なので、大きくそれなければ多少変更しても問題ありません。

1. 背景

- ・ 社会的問題などの背景を示してください。
- ・ 先行研究調査結果を示してください。なお、先行研究調査は15個以上必要です。日本語文献は多くても半分にしってください（半分以上は英語文献にしてください）。書籍だけでなく、学術論文を多く含めてください。

2. 理論的布置と研究目的

- ・ 自分の研究が学術理論的にどのように位置づけられるのか、位置づけを明示した上で、自分の研究による貢献を明示してください。
- ・ 自分の研究が社会的実践的にどのような意義があるのかを明示してください。
- ・ 研究目的を明示してください。

3. 方法

- ・ データを示してください。
- ・ 分析方法を示してください。

4. 結果

- ・ 分析結果は事実として示して、考察（主観）とは分けてください。ただし、「結果と考察」とするほうが読みやすい場合には文章内で事実と主観を分ける記述をすれば結果と考察を同じ章で書いても問題ありません。

5. 考察

6. 結論

なお、量的な方法をとらずに、質的な方法による研究でも全く問題ありません。質的研究は学部生だけでなく大学院生でも問題ありません。量的研究のみにこだわる必要は全くありません。

特に、多くの調査データの取得が出来ない学生の場合には、少数の対象者に対するインタビューによる質的研究を行ったり、独自のデータ取得ではなく先行研究をまとめた「レビュー論文」を作成したりすることで論文を構成することをお勧めします。

2.2.6. グループの役割

- ・ 個人研究発表者は「話題提供者」であり、各グループは「討論者」という意識で取り組み、各発表を題材・きっかけとしてクラス全体で経営・心理の学びを深めるようにしてください。各グループは1回のゼミで、1回以上は必ず質疑応答を行うことが求められます。質疑応答では、単なる感想・コメントは禁止して、発展的な質疑をすることが求められます。

2.3. 資料検索講習会

図書館などの支援を得て、経営データのリサーチのための資料検索講習会を行います。春学期中に4回実施予定です。

2.4. 実践統計講義

経営・心理統計についてプログラミング言語Rを用いて基礎を学ぶ時間を設けます。統計解析に苦手意識を持つ人でも大丈夫です。Rのインストールから一緒に始めていきます。コードを書けなくても統計がビジネス実践レベルで理解・実行できるようにします。教科書として以下を使う予定です。

- ・ 新訂ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法，田中・山際，1992年，教育出版
- ・ R Commander ハンドブック，舟尾，2008年，オーム社

3. 夏季休暇中の宿題

「1. 背景」「2. 理論的布置と研究目的」「3. 方法」までの完成。つまり、データをどう取得して、どう分析するか、までを完成させます。

- ・ 分量は学部生 2 ページ以上です。
- ・ ワードで提出する卒論の形式で作成します。
- ・ 秋学期初回授業に提出してもらいます。

4. 秋学期

秋学期は、学部 3 年生と学部 4 年生が合同で一緒にゼミを行います。卒論作成に向けて、研究論文とは何かを学ぶ上で、学部 4 年生の論文を見ることによる学びが大きいからです。その分、個々人への指導時間は限定的になるため、ゼミ時間およびゼミ前後の時間を計画的に個々人が使って必要な指導が受けられるようにしてください。

具体的な活動内容は、個人を単位とした「個人研究発表」を春学期と同様の方法で進めます。また、毎月「相談会」、不定期で「相互チェック会」を行います。

4.1. 相談会

個人研究発表上の悩み・コツを学生同士で共有するものです。手ぶら質問でも何でもOKな極めてお気楽な場です。授業時間内に設けます。各相談会でメンバーは入れ替え、司会を各回で定めてゼミ生自身がファシリテーションをしてもらいます。教員が毎回グループ別に司会を指名します。ディスカッション方式でテーブル作りを行います。1 テーブルあたり 4 人程度で、テーブル整理・プロジェクタ設置・マイク準備・換気等はゼミ幹事が行います。

具体的には、「チームでの相談タイム」を 30 分、「質疑応答タイム」を 60 分設けます。

「チームでの相談タイム」では、①お互いの卒論の不明点を学生同士で教え合う・情報共有する②質問を 2～3 個程度グループで作成する、という 2 点を行います。「質疑応答タイム」では、各チームの質問を全てのチームに共有した上で答えられる学生が答えつつ、教員が適宜サポートします。

4.2. 相互チェック会

学部 3 年では予定はありませんが、学部 4 年・博士前期では論文の相互チェックを緻密に行う場として「相互チェック会」を行います。お互いの論文の基本的な誤字脱字や論理構造などのチェックも含めて論文の質を学生間で高めていきます。授業時間内に設けることもありますが、授業時間外に各グループで集まってもらって相互チェックすることが中心になります。

参考：2022年度 学部3年ゼミのスケジュール

4月15日	ガイダンス，自己紹介，ゼミ幹事決定，グループ分けとグループ演習課題の提示，個人研究発表の順番決定と発表方法提示，質疑応答
4月22日	グループでの活動1回目
5月13日	グループでの活動2回目
5月20日	資料検索講習会（①文献情報コース）
5月27日	グループでの活動3回目
6月3日	資料検索講習会（②統計情報コース）
6月17日	グループでの活動4回目
6月24日	資料検索講習会（③企業・業界情報（基本編）コース）
7月1日	グループ発表と議論
7月8日	資料検索講習会（④企業・業界情報（応用編）コース）
7月15日	個人研究発表1回目（3名）
7月22日	個人研究発表1回目（3名）
7月29日	個人研究発表1回目（4名）
10月4日	個人研究の宿題集め，発表の順番決め，相談会の進め方，秋学期ゼミ幹事決め
10月11日	個人研究発表（4名）
10月18日	個人研究発表（4名）
10月25日	個人研究発表（4名）
11月1日	相談会
11月8日	個人研究発表（4名）
11月15日	個人研究発表（4名）
11月22日	個人研究発表（4名）
12月6日	相談会
12月13日	個人研究発表（4名）
12月20日	個人研究発表（4名）
1月17日	個人研究発表（4名）
1月24日	相談会
1月31日	卒業論文の「1. 背景」「2. 理論的布置と研究目的」「3. 方法」「4. 結果」の第一版提出
2月7日	教員との個別・グループ指導（希望者のみ）

（注）2022年度のもので、2023年度のものではありません。2023年度からは授業時間中に「実践統計講義」を行う予定です。

学部4年生ゼミ

春学期・秋学期ともに、学部3年生秋学期の活動内容とほぼ同様です。

つまり、「個人研究発表」を主体としながら、「相談会」と「相互チェック会」によって、論文の質をどんどん高めていきます。教員からの指導も4年生からは厳しくなっていきますので、頑張りましょう。

大学院生ゼミ

1. 博士前期課程（修士課程）

個人研究発表を進めます。大学学部3年生ゼミに関する卒業論文の構成の説明箇所を必ず参照し、その方法に則ってください。

（例）2022年度大学院ゼミのスケジュール例

第1回講義 自己紹介

第2回講義 研究を進める上での質疑応答

第3回講義以降 個人研究発表

なお、テーマによっては学部生と同じ授業に参加することもあります（例えば、資料検索講習会、相談会など）。

2. 博士後期課程（博士課程）

博士前期課程（修士課程）と同時限に合同でゼミを実施します。専ら個人研究発表を進めます。

参考書

以下は学部生・大学院生ともに各自で読み進めてください。研究をする上で必須になりますので、必ず理解しておくことが必要です。ゼミでは以下の教科書の理解がなされていることを前提に研究指導を進めます。本ゼミでは「習っていないから知らない・出来ない・研究を進められない」という受動的な姿勢ではなく、自ら情報・知識を探して学ぶという能動的な姿勢を前提としますので、「輪読」のように、自分で読めばわかることについてゼミの時間を充当することはしません。自分で読めばわかる文献については自分で読み進めましょう！

以下の書籍はあくまでも主なものの一例のため、より深く学びたい人は自分で調べるとともに教員に質問してください。

1. 研究法・調査法

- ・ 社会科学の考え方, 野村康, 2017年, 名古屋大学出版会
- ・ マネジメント研究への招待, 須田敏子, 2019年, 中央経済社
- ・ 社会調査の考え方, 上, 佐藤郁哉, 2015年, 東京大学出版会
- ・ 社会調査の考え方, 下, 佐藤郁哉, 2015年, 東京大学出版会

2. 採用・選抜研究

- ・ 就職選抜論 一人材を選ぶ・採る科学の最前線, 鈴木智之, 2022年, 中央経済社
- ・ The Oxford Handbook of Recruitment, Yu & Cable, 2014年, Oxford University Press (英語文献のため, 大学院生のみ必須。学部生は必須ではありません)

3. パーソナリティ研究

- ・ パーソナリティ心理学ハンドブック, 二宮ほか, 2016年, 福村出版
- ・ Handbook of Personality: Theory and Research Second Edition, Lawrence A. Pervin, and Oliver P. John, 1999年, The Guilford Press (英語文献のため, 大学院生のみ必須)

成績評価

1. 学部3年生の成績評価

1.1. 春学期

- ・ グループワークへの参加・貢献 (50%)
- ・ 個人研究発表 (40%)
- ・ 質疑応答による貢献 (10%)

1.2. 秋学期

- ・ 個人研究発表内容 (80%)
- ・ 質疑応答による貢献 (20%)

2. 学部4年生, 大学院生の成績評価

学部3年生「秋学期」の成績評価と同様です。

3. 注意点

- ・ グループワークへの貢献度が著しく低い人は、グループメンバーから教員に連絡してください。調べた上で貢献していないと認められた人は成績評価に反映します。
- ・ 全ての回への出席が必要です。ただし就職活動での欠席（インターンシップ含む）はOK！つまり欠席回数に含めません。なお、就職活動以外での欠席（アルバイト、私用など）はNGです。なお、「グループ発表」の日および個人研究発表で自分が発表担当の日に関しては就職活動であっても欠席は認められませんので、その点は注意してください。

論文形式

1. 学部生の卒業論文形式

- ・ 枚数や書式は以下の通りにします。以下に必ず則ってください。
- ・ MS Word (.docx) で作成する。
- ・ A4で30行×40字(全角)で1ページとする。
- ・ ページ番号を各ページの下中央に付す。
- ・ 論文には、題目(日本語本語及び英語の両方が必要)、要旨(日本語600字以内及び英語300語以内。日本語と英語の両方が必要)、キーワード(5個以内。日本語及び英語の両方が必要)、本文(図表含む。日本語で記述する)、参考文献を必ず含める。
- ・ 論文枚数は10枚以上12枚以下とする(本文、注釈、図表、参考文献を全て含む字数)。図表は1ページ相当は1,600字、2分の1ページ相当は800字として計算する。
- ・ 参考文献と注の表記方法については「経済科学」執筆要綱に従う。

2. 大学院生の修士論文・博士論文形式

経済学研究科の規定に則ります。

2023 年度ゼミ日程（学部 3 年・4 年，大学院）

2023 年度春学期

- ・ 火曜 3 限 学部 4 年ゼミ（3 年参加可能）
- ・ 火曜 5 限 学部 3 年ゼミ
- ・ 火曜 6 限 3 限の学部 4 年ゼミで時間が足りなかった場合の予備。学部ゼミ終了次第に大学院ゼミ（学部 3 年・4 年参加可能）

2023 年度秋学期

- ・ 火曜 5 限 学部 3 年・4 年合同ゼミで 6 限への延長有り
- ・ 火曜 6 限 学部ゼミ終了次第大学院ゼミ（学部 3 年・4 年生参加可能）

なお，春学期・秋学期ともに学部生でも「大学院ゼミ」に自由参加できます。

開講形式

対面で開講します。

コロナ感染者および濃厚接触者のみ，それらの証明とともにゼミ当日午前 11 時迄に教員に連絡をした履修生のみオンラインで個別対応します。コロナ感染者および濃厚接触者に該当しない履修生についてはオンラインでの対応はしません。

それ以外で個別に配慮を希望する履修生は対応できるかわかりませんが相談をしてください。

日程表

2023 年 4 月～2024 年 3 月までのゼミ日程表は，学部・大学院全体の日程表が確定次第，作成して N U C T などに公開します。

その他参考情報

2023 年度向けゼミ紹介資料
(2022 年度学部 3 年生のゼミ幹事が作成してくれました！)

Suzuki Seminar

Member
3 年
男子 5 人 女子 5 人
みんな仲がよく、助け合いを大事に活動しています。
コロナのため飲み会はまだ行っていませんが、今後状況が落ち着いたら行う予定です。

Contents
3 年前期は実在する特定企業の採用戦略の課題を見つけ出し、それを解決するためのケース・スタディ演習を行いました。3 年後期からは個人研究を行う予定です。

Thema
経営学 × 心理学
人的資源管理論
採用・選抜研究

Teacher
鈴木智之 准教授
とても優しく、就活の相談にも親身に乘ってくださいます。

Contact
連絡先
<https://suzukilabo.com/contact.html>
ゼミ見学日
日程は未定です。見学日は研究室ウェブサイト参照してください。
<https://suzukilabo.com/>